

名古屋大学SIPにおける 公共交通サービスレベル評価 「LIPT」の取り組みと展望

2026年6月25日

モビリティ・イノベーション・アライアンス 2025年度活動報告会

名古屋大学 モビリティ社会研究所 特任助教

早内 玄



NAGOYA UNIVERSITY

早内 玄（はやうち げん）



東海国立大学機構 名古屋大学

未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 特任助教

土木計画学、都市交通計画

2022.03 博士（工学）横浜国立大学

2022.04 日本学術振興会特別研究員（名古屋大学）

2023.04 名古屋大学 特任助教 現在に至る

兼務 一般社団法人JCoMaaS 事務局長

連絡先 hayauchi.gen.e9 [at] f.mail.nagoya-u.ac.jp



個人ウェブサイト

<https://www.genhayauchi.jp/>



Eight 名刺データ

内閣府SIP第3期「スマートモビリティプラットフォームの構築」

名古屋大学

先進的モビリティシステムを活用したスマート・ディストリクトの構築



1. いろいろなモードの大連結

- ① 電動二次交通対応型モビリティハブ（モビリティEステーション） + シェアモビリティ等の展開
- ② 陸海空貨客混載システム（佐久島での離島モデル実証）
- ③ 自動運転車標準制御仕様・対応車両（域内交通・二次交通として活用）

2. かんたん・かしこい払い方

二次元バーコードを用いた、移動サービス利用チケット認証システム「デジタチ」

3. 地域の生活施設アクセシビリティ指標LIPT

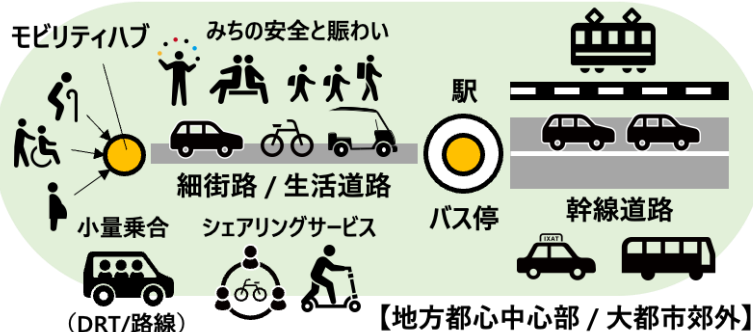
- ① 活動機会へのアクセシビリティ評価指標（LIPT）
- ② LIPT算定・可視化ツール（LIPT-sim）



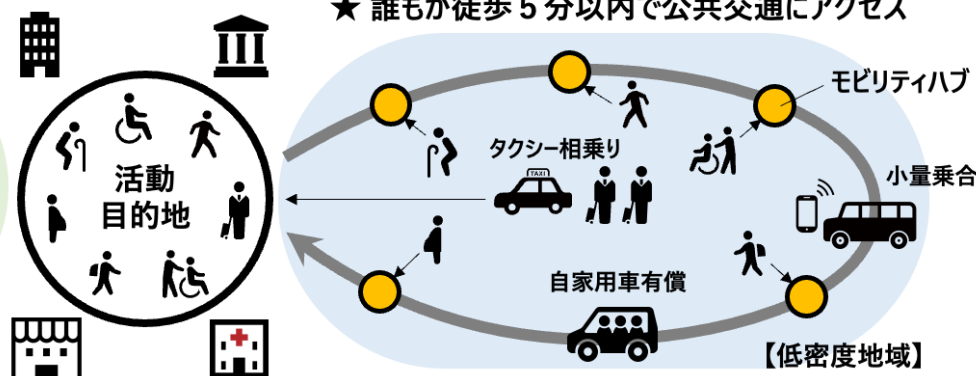
**低密度地域における課題解決型モビリティ・サービスとして地域資源を総動員した
実践体制の確立・社会実装の実現**

- ① 安全で自立的な移動を実現し、地域の課題解決に資するモビリティ・サービスの提供
- ② モビリティディバイドのない、持続可能で賑わいのある地域づくりへの貢献

★ 誰もが安心・安全にゆっくり歩ける空間



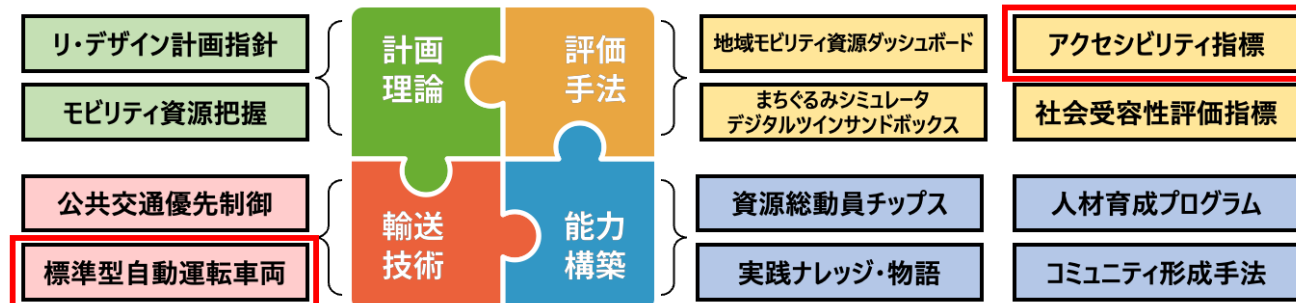
★ 誰もが徒歩 5 分以内で公共交通にアクセス



【リ・デザインのプロセス】



ビジョニングとバリデーションの
強化・実質化等



顕在化した交通行動

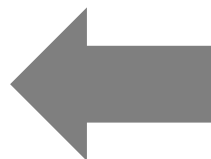
移動者のニーズ（潜在を含む）

サービスレベル・アクセシビリティ

運行に要する資源

本源需要

- 勉強をする
- 買い物をする
- 人にあう
- 映画を見る

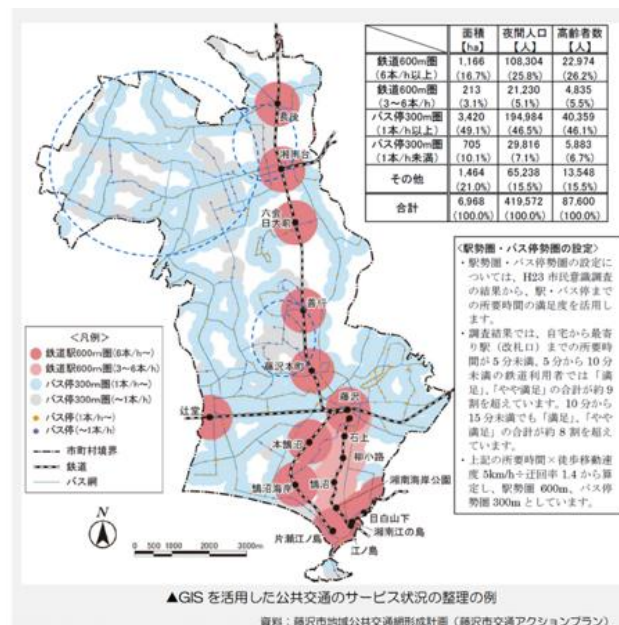


派生需要

交通需要の殆どは派生需要
本源需要へのアクセスを担う

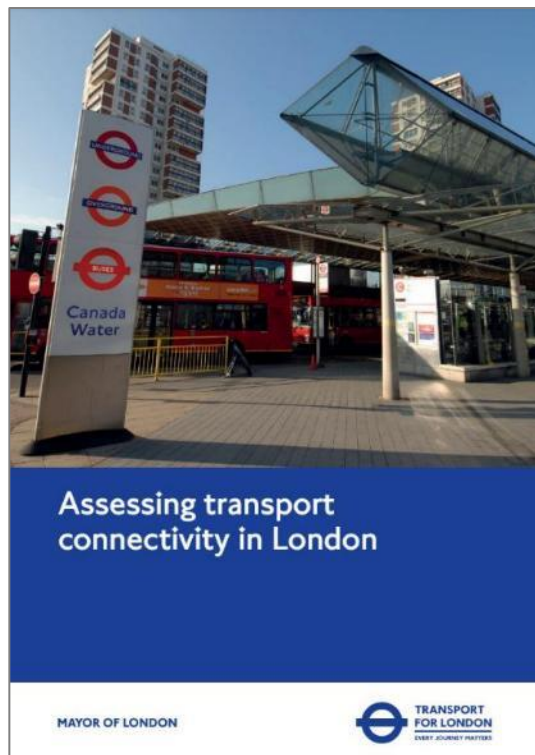
「アクセスしやすさ」の指標として
アクセシビリティ研究の蓄積

- 交通需要の殆どが派生需要
- ならば、機能・性能の評価も「本源需要へのアクセシビリティ」であるはず（指標としては「**活動機会へのアクセシビリティ**」）
- 一方、実務の多くはカバー圏域など「公共交通へのアクセシビリティ」で診断



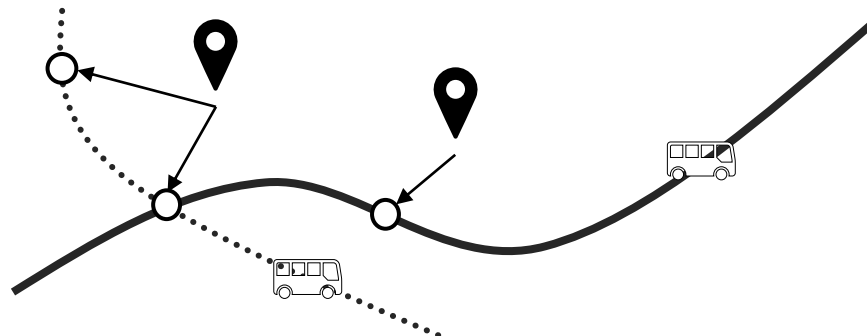
地域公共交通計画等の作成と運用の手引き
実践編 第4版（2023）、国土交通省

- 要因として想定される事項
 - 「使いやすい」活動機会へのアクセシビリティ指標の不在
 - 指標が複雑化した際に、**計画策定実務の工数を拡大させないための技術的
下支え（ツール）**が不在
 - 特に、ダイヤ・運賃等サービスレベルの入力工数が大きい。カバー圏域など空間のみで処理できる指標は圧倒的に実務で扱いやすい



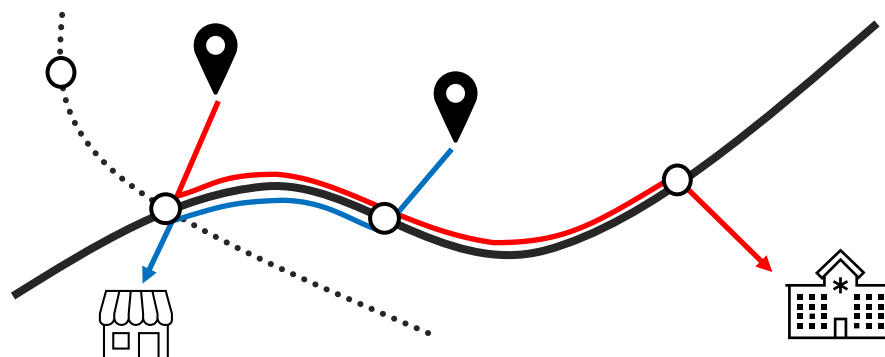
PTAL; Public Transport Accessibility Level

公共交通へのアクセシビリティ 期待待ち時間の指標
各地点周辺の公共交通運行頻度 + 結節点までの期待歩行時間



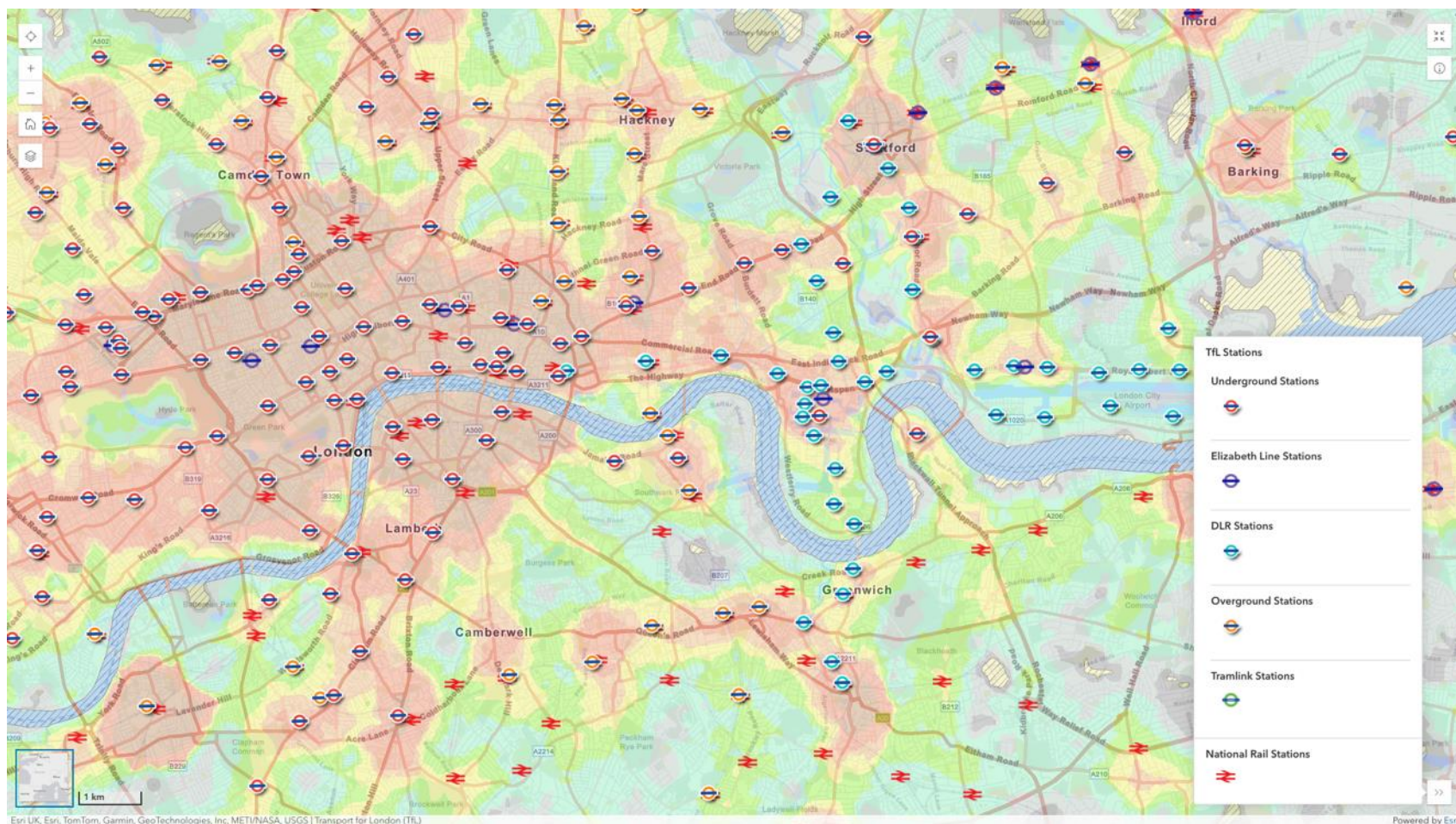
ATOS; Access to Opportunities and Services

目的地までの所要時間を指標化する

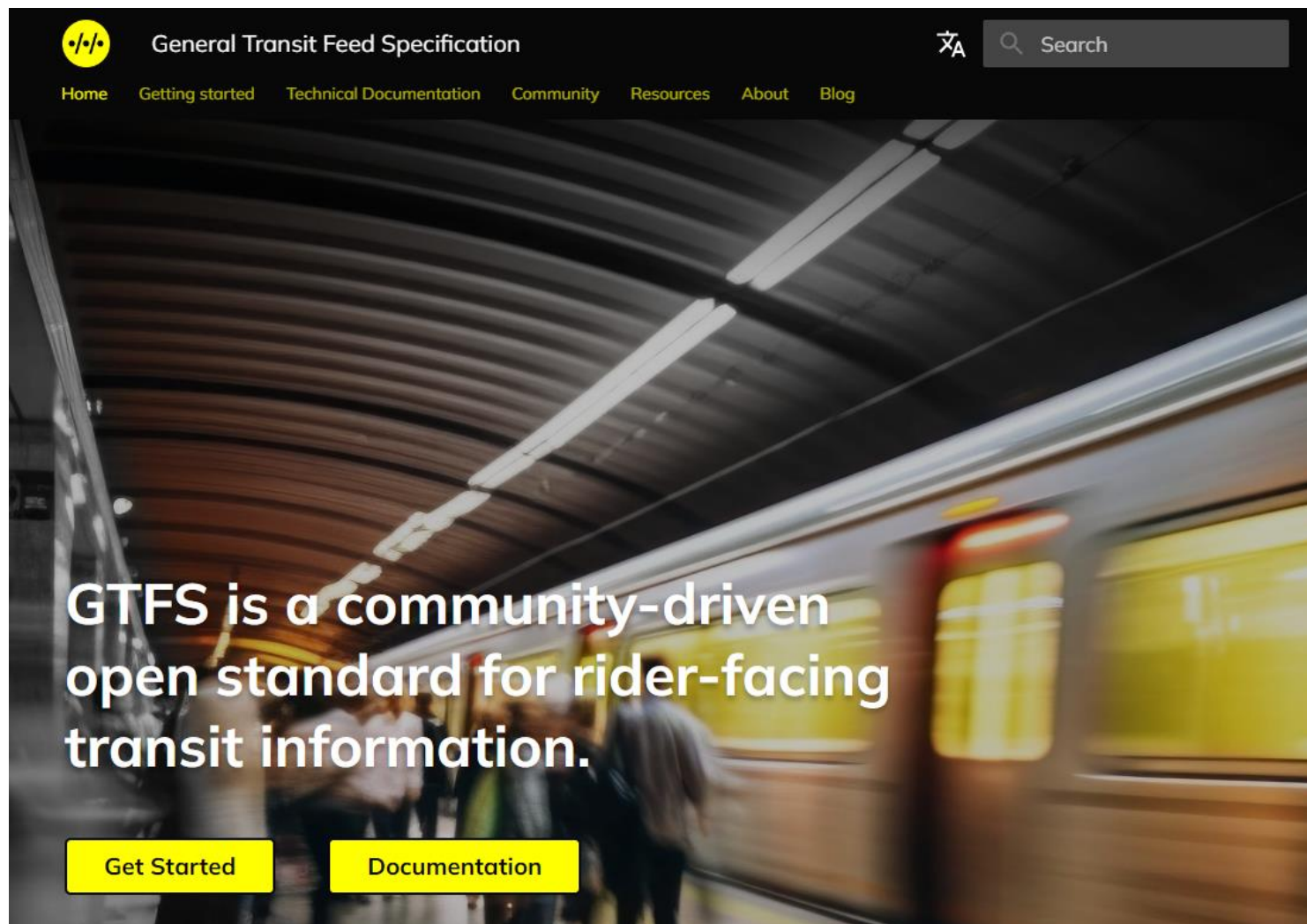


<https://data.london.gov.uk/dataset/public-transport-accessibility-levels>

- ロンドン内の計算結果にアクセス可能
 - 計算ツールの公開ではないため、他都市や仮想サービスの計算には非対応
 - 手作業でやろうとすると。。。。



- GTFS, GTFS-Flex, NetEx, etc.
 - 標準仕様の運行データから計算すれば、ツール化できる可能性がある



<https://gtfs.org/>



Livability Index by Public Transport

LIPT-sim 第一弾ツール

提供中

- 英国の既存指標（PTAL・GMAL）をGTFSから算出できるようにしたもの
- 公共交通の「**サービス密度**」を示す指標
 - 期待待ち時間の指標



LIPT-sim 第二弾ツール

開発中

- 公共交通によって活動機会へ「**行って・妥当な時間を過ごして・帰ってこられるか**」の判定指標

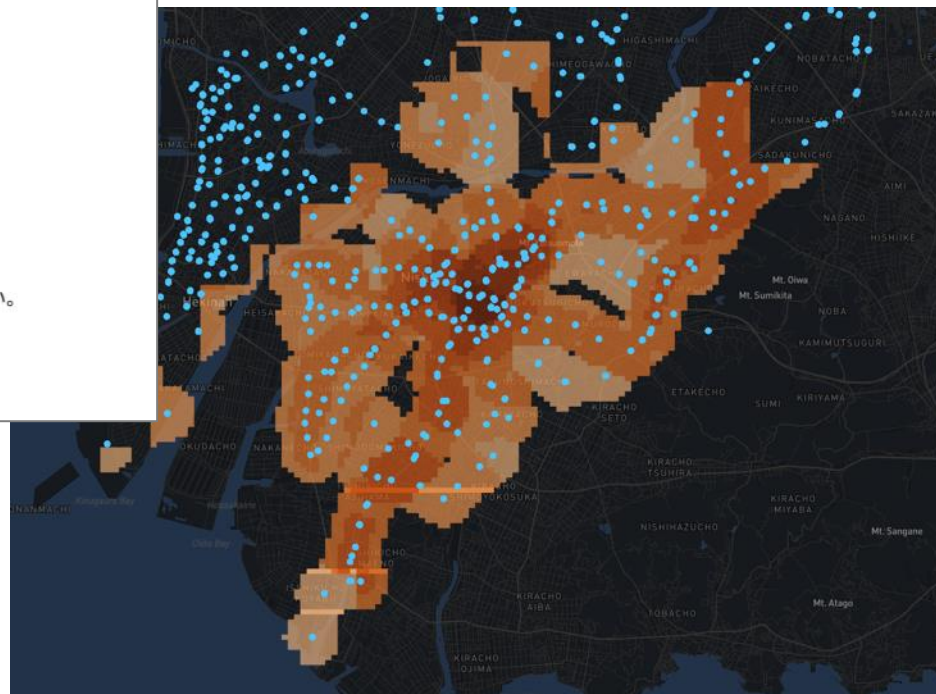
- 第一弾ツール：英国の既存指標（PTAL・GMAL）をGTFSから算出可能
 - Japan Mobility Data Space（JMDS）上に実装（2024年12月実装・2025年3月改良）
 - 外部ツール・ダッシュボードへのAPI提供を可能にする取り組みを実施中



The screenshot shows the 'Japan Mobility Data Space' interface with a 'LIPT-sim' section. It includes a 'デジタルサンドボックス' (Digital Sandbox) button and a 'ログアウト' (Logout) button. The 'LIPT-sim' section has a description: 'LIPT（リプト）は、公共交通による都市機能へのアクセシビリティを示す指標である。LIPT-simは、GTFSデータをもとに地域の公共交通サービスレベルや都市機能へのアクセシビリティ指標を簡単に計算できるツールである。' Below this, there are three steps: STEP1 'データ選択' (Data Selection) with a button and text '「1件」選択されています。'; STEP2 'データ加工' (Data Processing) with a button and text '「1件」選択されています。'; and STEP3 'シミュレータ実行' (Simulator Execution) with a button and text 'シミュレータを実行してください。'. At the bottom, there is a note: 'Beta版のため、アクセス集中等によりエラーが発生する場合がございます。ご了承ください。' and two buttons: '実行結果確認' (Check Execution Results) and '実行履歴一覧' (List Execution History).

計算結果出力例

API接続している「GTFSデータリポジトリ」（AIGIT）に格納されたデータを用いて愛知県西尾市を対象に計算を行なった例（暖色系ほどLOSが高い）



ブラウザ上で操作

- GTFSデータをアップロード、または算出したい自治体名を選択してGTFSデータリポジトリよりファイル取得
- アクセシビリティ指標を算出
- 画面上に描画および結果ファイルを出力



川崎市地域公共交通計画（R8年度策定）では、計画の進行管理を行う際に、新たな技術的研究成果を必要に応じて活用する方針を表明。LIPTが例示され、今後、同市における公共交通の施策にかかる進行管理等の場面において、LIPTの活用可能性が言及された。

第5章 計画の進行管理

(3) 国等との連携

国の動向について

- ・現在、国において、地域公共交通を取り巻く環境の変化を踏まえ、国庫補助事業をはじめ、地方公共団体を支援する外部組織の活用やデータの利活用、法定協議会の運営など、今後の地域公共交通政策のあり方※が検討されています。
- ・本計画では、このような国の動向等を踏まえ、計画内容のアップデートを必要に応じて実施しながら、本計画の推進を図ります。

※ 交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会 とりまとめ(R7.12)

施策の立案・評価について

- ・大学・企業等の様々な機関において、国と連携し、地域公共交通に関する新たな技術的研究が進められています。
- ・効果的かつ戦略的に取組を進めるため、大学・企業等との連携による施策の立案・評価に向けた検討を進めながら、本計画の推進を図ります。

内閣府の取組例：戦略的イノベーション創造プログラム(SiP)



- ・社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な課題を設定し、技術、事業、制度、社会的受容性、人材の視点から社会実装を推進

プロジェクト事例(スマートモビリティプラットフォームの構築)



川崎市自動運転バスデザインコンペ
(主催)筑波大学公共心理研究所及び
独立行政法人交通安全環境研究所



地域の公共交通サービスレベルや都市機能への
アクセシビリティ指標の計算ツールに関する
研究(名古屋大学)



国土交通省の取組例：地域交通DX推進プロジェクト(COMmmONS)

- ・地域交通の「リ・デザイン」の全面展開を進めるため、サービス、データ、マネジメント、ビジネスプロセスの4つの観点からデジタル活用を一体的に推進し、地域交通の持続性、利便性、生産性向上を実現

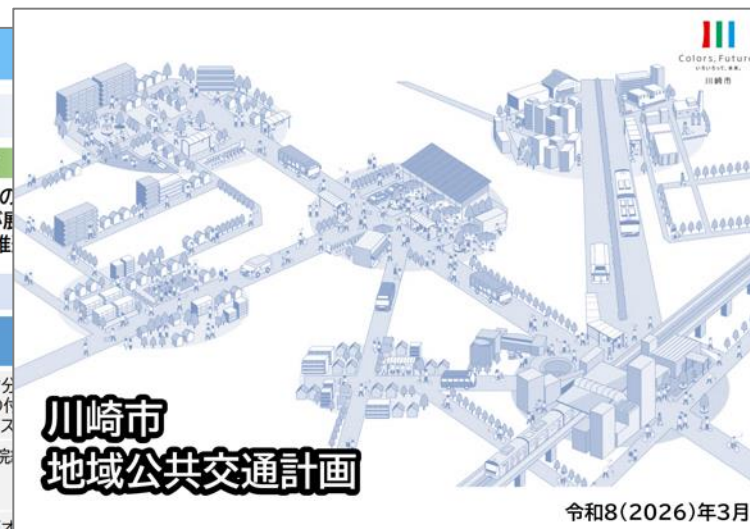
国庫補助事業等の活用について

- ・国土交通省をはじめとした複数の国庫補助事業が、本計画の推進に資する活用により、本計画の推進を図ります。

本市における主な活用事例

取組	活用事例
長大・重複路線の効率化	交通系IC利用データ分析・シミュレーション機能の活用(実施主体:川崎市バス)
自動運転バスの導入	羽田連絡線、川崎病院実証実験等(実施主体:川崎市)
コミュニティ交通の維持・導入	川崎区内におけるAI「KAWASAKI」の実証実験等(実施主体:川崎鶴見臨港バス)
	宮前区平地区における「つばめプロジェクト」の新たな組成とともに、フレイル予防プログラム参加者を中心とした地域居住者への乗合タクシーサービスの提供(実施主体:LocaliST株式会社)
	地域モビリティサービスの持続可能な運営体制の構築(実施主体:川崎市)
	六創モデル実証運行事業
	モビリティ人材育成事業

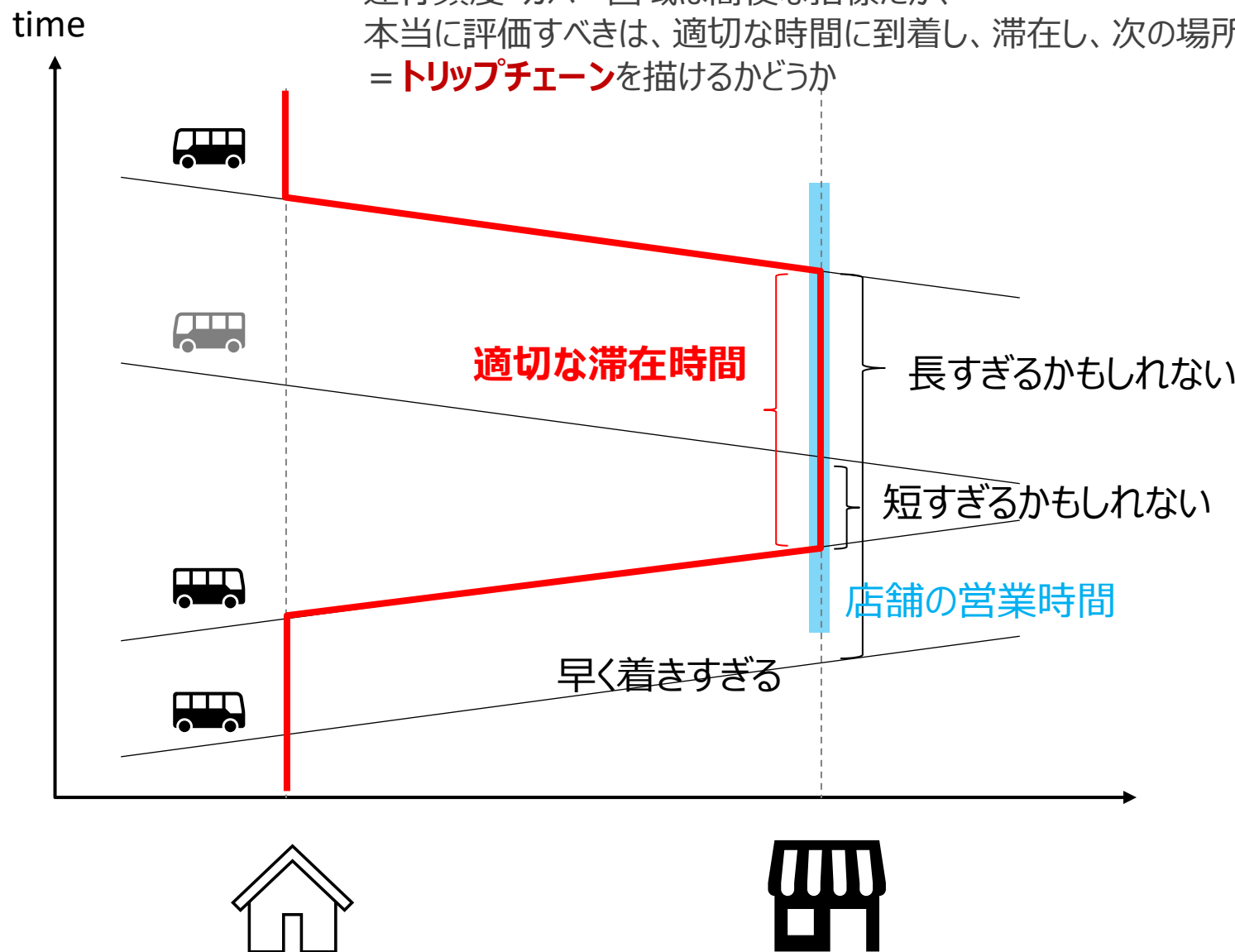
LIPTに言及

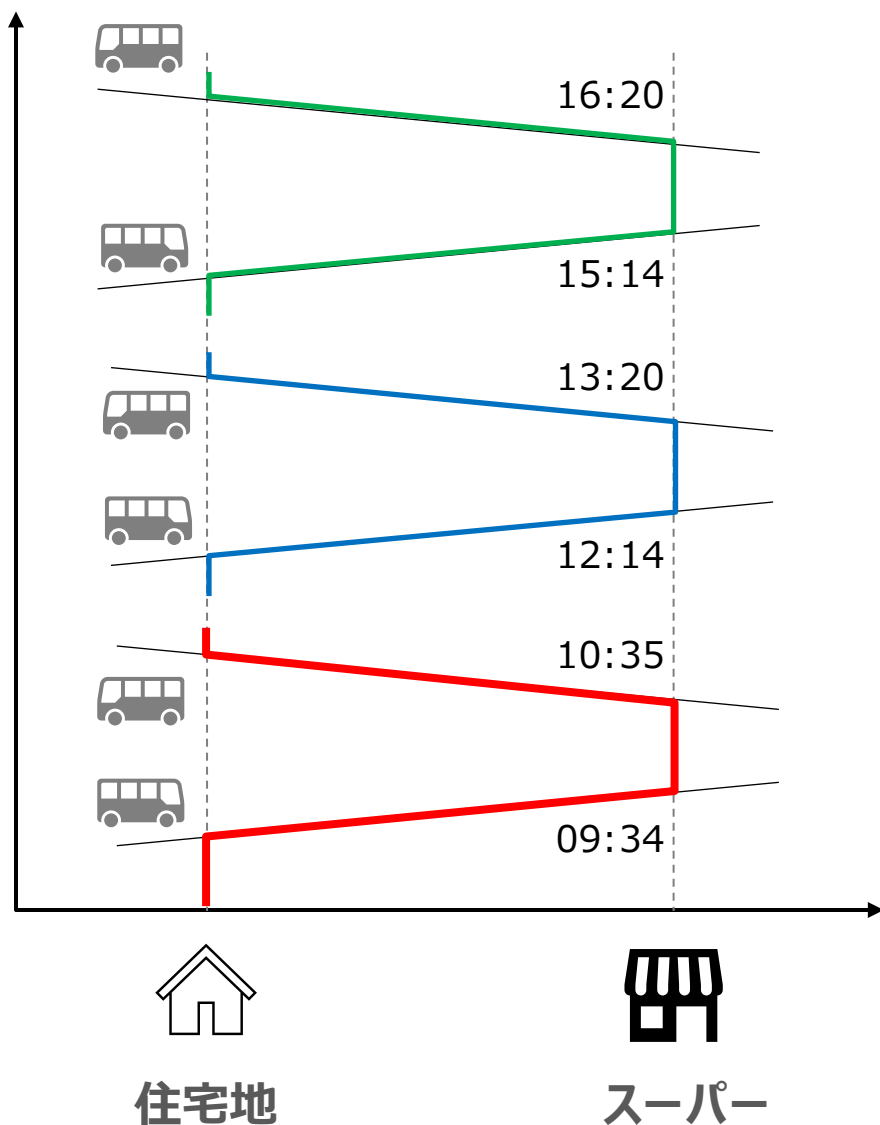


事業連携等について

- ・地域公共交通を取り巻く環境が変化し続けている状況を踏まえ、国土交通省が設置している「交通空白」解消・官民連携プラットフォームとの連携や、「交通空白」解消等「リ・デザイン」全面展開プロジェクトなどの補助事業も活用しながら、本計画の推進を図ります。

運行頻度・カバー圏域は簡便な指標だが、
本当に評価すべきは、適切な時間に到着し、滞在し、次の場所へ行けるかどうか
= **トリップチェーン**を描けるかどうか





34 かすみがうら駅	
平日(月～金曜日)時刻表	
振り替え休日・祝日も運行	
スーパーサンジ方面	
8	50
9	
10	
11	30
12	
13	
14	30
15	
16	
17	20
18	

福本雅之「地域公共交通のネットワークとサービスレベルの性能評価手法に関する一考察～行ける・行けない表の提案～」
 （2024）、第 69 回土木計画学研究発表会・講演集

第 69 回土木計画学研究発表会・講演集

地域公共交通のネットワークとサービスレベル の性能評価手法に関する一考察 ～行ける・行けない表の提案～

福本 雅之

〒468-0015 名古屋市中天区原一丁目 204-305)
 : fukumoto@bansousha.co.jp

表-3 中津川市における行ける・行けない表の作成結果

	高校					病院
	中津高等学校	中津商業 高等学校	中津川工業 高等学校	坂下 高等学校	阿木 高等学校	中津川 市民病院
中津地区	○	○	○	○	×	○
山口地区	○	○	○	○	×	○
坂下地区	○	○	○	○	○	○
川上地区	○	○	○	○	×	×
加子母地区	○	○	○	○	×	○
付知地区	○	○	○	○	×	○
福岡地区	○	○	○	○	×	○
蛭川地区	○	○	○	○	×	×
苗木地区	○	○	○	○	×	○
坂本地区	○	○	○	○	○	○
落合地区	○	○	○	○	×	○
阿木地区	○	○	○	○	(徒歩)	×
神坂地区	○	○	○	○	×	○

に、地域公共交通をネットワークとサービスの両面から性能評価する。この表はある一定の単位の地区から、公共行、用事を済ませて、帰ることができるかを一覧表形式に行けない表を提案するに至った背景や問題意識について述べた紹介する。さらに具体的な作成方法と分析例を示すことで、提案の有効な評価手法人なり得ることについて説明する。

essibility, networks, lever of service

サービスレベルの両者が必要十分であるかどうかを確認することが不可欠となる。

公共交通政策 以前には、民間事業者により整備・提供されているネットワークやサービスレベルを所与のものとして、その維持を命題とすることが多く、既存ネットワークとサービスレベルが地域活性化や住民福祉の観点から望ましい要求性能を満たしているかということの確認はおざなりにされがちである。とりわけ、地図上に表示することで地域内の状況が可視化しやすいネットワークの維持には意識が向いてはいるが、運行ダイヤように個別路線の時刻表として可視化されるサービスレベルの状況については意識されにくい。2007 年 による法 め、ネットワークは十分に整備されていても、サービスレベルが貧弱で、公共交通の要求性能が満たされないことも生じがちである。

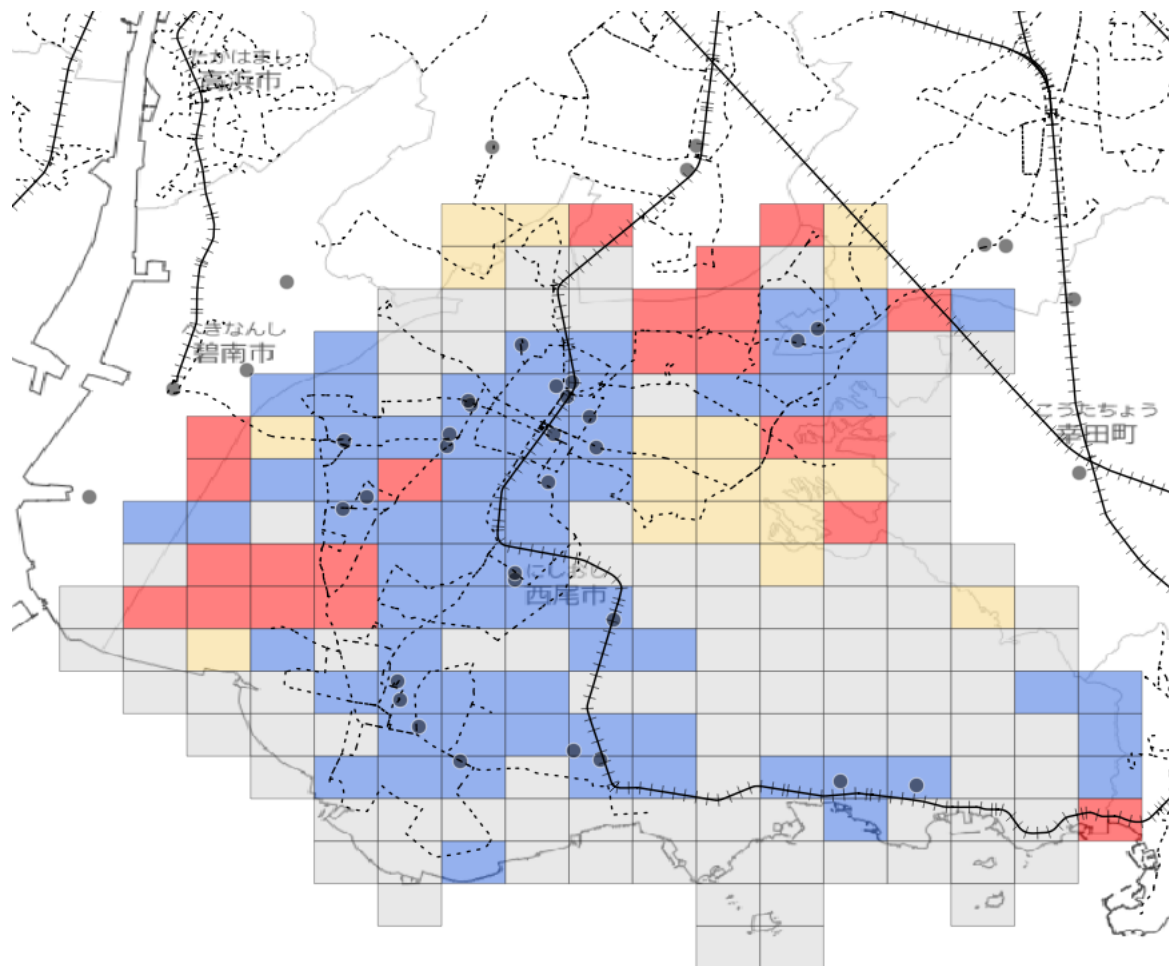
法改正に 各地域において地域公共交通の望ましい姿を描き、その実現を目指すものが地域公共交通計画であるとするならば、望ましい姿を具体的に要求される「性能」あるいは「仕様」として表現することなしに、その実現は不可能である。このことは、地域公共交通計画に基づく評価が移動 民が移動 客の特性 において、いかに利用者の利便性を重視され、本

行って・帰ってこられる

* 目的地設定 YahooマップAPI、経路探索 Navitime API

シナリオ

平日の1045～1115の間に、スーパーへ行き、40分ほど（25～55分）滞在して、帰るトリップ



- 徒歩のコストが最も低い
(=徒歩圏に目的地がある)
- 公共交通（バス・鉄道）で
往復が可能
- 公共交通（バス・鉄道）で片道は
移動可能（行けるが帰れないなど）
- 徒歩でも公共交通でも厳しい

* コスト設定や閾値設定は、改善の余地あり

名古屋大学SIPにおける 国際連携・国際展開の取り組み



NAGOYA UNIVERSITY



オーストラリアとの連携活動

● シドニー大学とのワークショップ

- ・ 2025年12月、シドニー大学との合同ワークショップを開催し、本拠点の成果を対外発信。またシドニーで開催されたTDM2025において日豪連携セッションを企画・登壇し、日豪のそれぞれの状況や視点を踏まえた議論を公開で実施

● 西オーストラリア大学とのワークショップ

- ・ 2026年2月に西オーストラリア大学とのワークショップを実施。オリコンコンソ、東大国際連携コンソと連携し、SIPスマモビの複数の研究内容をもとに研究交流を行った。SIP内他コンソ連携の機会にもなった



ベトナムとの連携活動

● SATREPSを通じたLIPTの展開（予定）

- ・ 2026年度始動のJST-SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）において、「AI駆動型モビリティ・プラットフォームを用いたカーボンニュートラルで健康的な都市に関するプロジェクト」（広島大学）の一環として、LIPTを活用・展開予定



タイとの連携活動

● 学生のサマースクールの機会を活用した交流

- ・ 2025年8月、名大コンソとして取り組むモビリティ課題を意識しながら、チュロンコン大学・名古屋大学で共同開催されたサマースクールにて、学生のフィールドワークを企画、インプットとしてLIPTの研究状況をタイ・日本の学生に共有
- ・ 昨年より交流している先方研究者にもレクチャーを依頼し、継続的な関係構築、連携活動としての成果

● Mobility Innovation Weekの機会を活用した交流

- ・ さらなる継続連携として、チュロンコン大学の研究者を11月に東京で開催されたMobility Innovation Weekに招聘し、登壇を依頼。日本とタイでの相互課題の議論などを行い、双方向交流として一定の成果



MIWAは、モビリティが人や都市、社会とどのように関わり、新たな価値を生み出すのかを探る国際フォーラムです。技術開発から社会実装への橋渡しを担う国際的な議論の場として、地域ごとの課題や特性を踏まえた持続可能なモビリティのあり方を共有・発信するとともに、産学連携を通じて次世代を担う人材の育成を推進します。

場所： チュラロンコン大学（タイ・バンコク）

日程： 2026年7月21日（火）～ 23日（木）3日間

同時開催： 2026年7月20日（月）～ 23日（木）4日間 Mobility Student Workshop

参加者： 日本・タイを中心としたモビリティ研究者および産業界から100名（うち、日・タイの大学院生30名）

- ・ 名古屋大学： 森川高行名誉教授、武田一哉名誉教授、高田広章教授、河口信夫教授、野辺継男客員教授 他
- ・ 東京大学： 中野公彦教授、塚田学准教授 他

参加費： 一般 25,000円 学生 0円 （ランチ3回、テクニカルツアー交通費、パーティ2回を含む）

共催： 名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所（GREMO）

チュラロンコン大学 工学部 スマートモビリティリサーチセンター（Smart MOBI）

東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構（UTmobI）

後援： 一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス

協力： 名古屋大学 バンコク事務所、株式会社 Tokai Innovation Institute





キートピックス :

- Life-centric mobility, Inclusive mobility, Social value, Social acceptance, Walkable streets, Road safety
- Digital twin, Software-defined vehicles (SDV), Automated driving, Connected vehicles, End-to-End (E2E) mobility systems
- Mobility as a Service (MaaS), Mobility hubs, Micro-mobility
- Smart cities, Sustainable mobility, Asian mobility markets

プログラム :

- 7/21 (火) テクニカルツアー (CAV Sandbox at Wangchan Valley)、ウェルカムパーティ
- 7/22 (水) プレナリーセッション、ポスターセッション、展示
- 7/23 (木) プレナリーセッション、学生グループ発表、フェアウェルディナー

セッションテーマ :

- Session 1: AI Shaping the Future of Mobility Systems
- Session 2: Software-Defined Vehicles and the Transformation of Mobility
- Session 3: Better Future with Data-Driven Urban Mobility
- Session 4: Context-Responsive Mobility Solutions: Innovation from Asia
- Session 5: Mobility Innovation: Opportunities, Risks, and Societal Impacts
- Session 6: Roundtable: Asia's Role in Driving Mobility Innovation

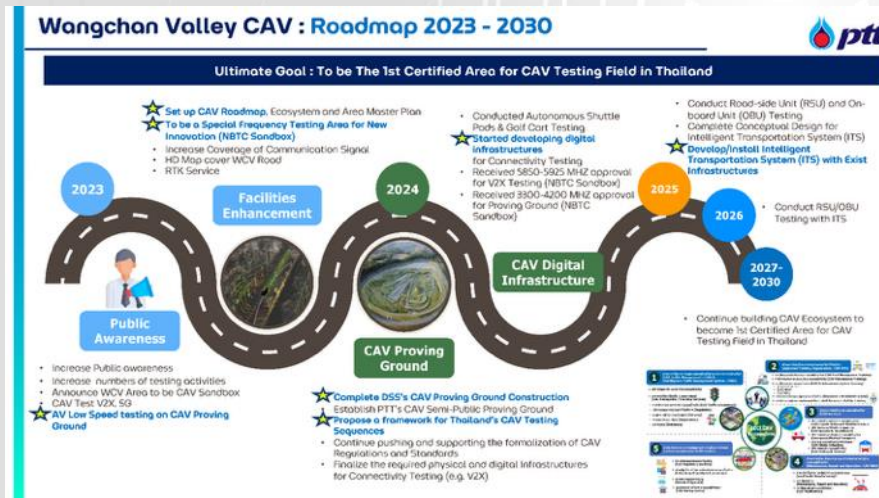


7/21 (火) テクニカルツアーー CAV Sandbox at Wangchan Valley

バンコクから車で2.5-3時間

Participants will visit the **Testing Center for Connected and Automated Vehicles (T-CAVs)** at the Eastern Economic Corridor of Innovation (EECi), Wangchan Valley, Rayong Province — Thailand's first dedicated CAV sandbox area.

The visit features **live demonstrations of an autonomous golf cart, a modified BYD autonomous car, a Smart Intersection system, and ADAS function tests including AEB (multi-angle) and ALKS**, conducted on the proving ground and surrounding semi-public roads. Participants will also tour **adjacent EECi lab facilities** covering automated warehouse systems, AGV/AMR robotics, and EV motor testing.



WANGCHAN VALLEY | **EECi** | **ptt**

CAV SANDBOX

The relentless development of innovation testing in the Wangchan Valley project area.
Wangchan Valley focuses rigorously on developing both physical and digital infrastructures to support the testing of modern transportation, particularly Connected and Autonomous Vehicles (CAVs). This effort has resulted in numerous collaborations between government regulators, educational institutions, and entrepreneurs. To facilitate innovation testings under the CAV Sandbox in Wangchan Valley, the entire area is equipped with both physical and digital infrastructures, supporting facilities, and essential resources that support various forms of testings such as,

- CAV Proving Ground by Department of Science Service (DSS)
- Wangchan Valley Private Track
- Wangchan Valley Semi Public Road
- Wangchan Valley 3D Digital MAP & RTK Device

ROAD AND TRAFFIC SYSTEM

- Road and traffic system
- EV Charger
- Smart Pole
- Smart Bus stop

CAV USE CASES

- PTT collaborates with the Department of Science Service and Region (Thailand) to be the Smart City Solution Awards 2024 competition. Their autonomous drive tests the project into the Wangchan Valley area.
- "Wangchan Valley" received an award from DSS to be the Smart City Solution Awards 2024 competition. The project was recognized with a Gold Level Award in the Smart Mobility category.
- HS Robotics conducted a test of autonomous delivery robots operating from local shops within Wangchan Valley.



Keynote:

Thailand Autonomous driving technology landscape

Dr. Pasan Kulvanit

Director of Institute of Innovative Robotics and Autonomous Vehicles

Department of Science Service, Ministry of Higher Education, Science, Research, and Innovation



Keynote:

Perspective on Asia's evolving role in transportation innovation, sustainability, and regional collaboration based on China's experiences

Prof. Huapu Lu

Tsinghua University / Former Director, Institute of Transport Engineering, Tsinghua University





* Moderator

Session 1: AI Shaping the Future of Mobility Systems

AI is transforming how mobility systems are designed, managed, and experienced. This session focuses on the growing adoption of end-to-end AI approaches in automated driving and their implications for safety, system design, and real-world deployment. It also highlights emerging requirements for infrastructure, including V2X integration and data-driven environments.

Speakers: 塚田 学* (東京大学)、Patiphon Narksri (ティアフォー)、Yuchen Zhang (Zelos Technology (Singapore) Pte Ltd)、Sebastian Yee (WeRide)、Ann Shi (Pony.ai)

Session 2: Software-Defined Vehicles and the Transformation of Mobility

Software-defined vehicles (SDVs) are shifting mobility from a hardware-centric paradigm to a software-driven, service-oriented ecosystem. This session explores how SDVs enable new functionalities, continuous system evolution, and new business models, while reshaping the structure of the automotive and mobility industries.

Speakers: 野辺 継男* (名古屋大学)、Venkatesh Prakash (Elektrobit)、高田 広章 (名古屋大学)、Nuksit Noomwongs (チュロロンコン大学)

Session 3: Better Future with Data-Driven Urban Mobility

This session explores how digital twins enable new approaches to understanding, planning, and operating urban mobility systems. It focuses on how data-driven insights can reshape decision-making beyond traditional optimization.

Speakers: 河口 信夫 (名古屋大学)、Nattapong Punnoi (チュロロンコン大学)、Intouch Marsvongpragorn (ViaBus)、Non Arkaraprasertkul (Digital Economy Promotion Agency (DEPA, Thailand))



* Moderator

Session 4: Mobility Innovation: Opportunities, Risks, and Societal Impacts

Mobility innovation brings both opportunities and challenges. This session explores its broader societal impacts, including potential risks, equity concerns, and long-term implications for cities and communities.

Speakers: Supakorn Siddhichai (Digital Economy Promotion Agency, Thailand) 、 Yosuke Uchiyama* (チュロンコン大学)、TBA (Department of Land Transport, Ministry of Transport)、TBA (TUV Rheinland)、Ariana Salas-Castillo (Columbia University)

Session 5: Context-Responsive Mobility Solutions: Innovation from Asia

This session highlights practical and context-responsive mobility solutions emerging from Asia. It focuses on how local knowledge, constraints, and ingenuity shape implementable and sustainable approaches.

Speakers: 中野 公彦 (東京大学) 、Tawit Sangveraphunsiri (MuvMi) 、Kee Chong Yan (Nadi Willer Sdn. Bhd.) 、Yuhan Xiao (UITP Asia Pacific) 、梅田 学* (東京大学)

Session 6: Roundtable: Asia's Role in Driving Mobility Innovation

This roundtable brings together diverse perspectives to discuss Asia's role in shaping the future of mobility. It explores how regional experiences can contribute to global mobility innovation.

Speakers: 森川 高行 (名古屋大学) 、Sorawit Narupiti (チュロンコン大学) 、中野 公彦 (東京大学) 、Huapu Lu (Tsinghua University)



Co-located Event: Mobility Student Workshop – Transdisciplinary Dialogue in Bangkok

Bringing together graduate students from Thailand and Japan, this workshop unites participants from diverse disciplines to tackle real-world urban mobility challenges in Bangkok. Through field research, teams will gain firsthand insight into local conditions and propose solutions in a final group presentation during the MIWA sessions.

Day 0 (July 8): Online Orientation

Day 1 (July 20): Group Work, Students Mixer & Dinner

Day 2 (July 21): Technical Tour (CAV Sandbox at Wangchan Valley),
Fireside Chat, Welcome Party

Day 3 (July 22): Plenary Sessions, Poster Session, Group Work

Day 4 (July 23): Plenary Sessions, Group Work, Group
Presentations, Farewell Dinner

CALL FOR PARTICIPANTS
Mobility Student Workshop
Transdisciplinary dialogue in Bangkok

DATE: Pre Online Orientation + 4 Day Workshop (20th – 23rd July, 2026)
VENUE: Chulalongkorn University
WHO: Open to all faculties. Graduate students (Master's or above) preferred.
HOW TO APPLY: Must be available for all 5 days. Limited to 15 participants.
LANGUAGE: English

Application Form

Program Overview
Bringing together graduate students from Thailand and Japan, this workshop unites participants from diverse disciplines to tackle real-world urban mobility challenges in Bangkok. Through field research, teams will gain firsthand insight into local conditions and propose solutions in a final group presentation.

Important Dates
Application Deadline: 13 May, 2026, 5 PM (ICT)
Acceptance Notification: 18 May, 2026
* Selection will be made based on a review of applications.

Participation Fee: Free!
Included:
• Daily Lunches
• Dinner (20, 21 and 23 July)
• Access to Technical Tour
• Admission to MIWA 2026

NOT Included, to be Covered Individually:
• Dinner (22 July)
• Expenses for Group Work (on-site)

Highlights from 2025

Fireside Chat: Life and Work After Graduation in Japan
Join us for a relaxed Fireside Chat where Thai seniors share their real-life experiences of obtaining a degree and building a career in Japan.

What You'll Gain
• Latest Mobility Knowledge
• Practical Problem-Solving Ability
• Multidisciplinary Skills
• Global Perspectives on Shaping the Future of Society
• International Networks
• Career Insights

Schedule
DAY 0
18 Jul (Sat)
14:00-18:00
Online Orientation

DAY 1
20 Jul (Mon)
Group Work
Students Mixer & Dinner

DAY 2
21 Jul (Tue)
Technical Tour (CAV Sandbox at "Wangchan Valley" Smart City)
Fireside Chat
Welcome Party

DAY 3
22 Jul (Wed)
Plenary Sessions*
Poster Session*
Group Work (on-site)

DAY 4
23 Jul (Thu)
Plenary Sessions*
Group Work
Group Presentations*
Farewell Dinner*

Logos: NAGOYA UNIVERSITY, Chula, TMI Transdisciplinary Mobility Innovation

Graduate Program for Lifestyle Evolution based on Transdisciplinary Mobility Innovation (GPMI) at Nagoya University

Inquiry
gpmi@nagoya-u.ac.jp



Fireside Chat: Life and Career Paths After Graduation in Japan (For Thai Students)

Join us for a relaxed Fireside Chat where Thai professionals share their real-life experiences—from obtaining a degree in Japan to building careers both in Japan and Thailand.



Patiphon Narksri

TIER IV, Inc.

B.Eng., Chulalongkorn University

M.Eng. and Ph.D. in informatics, Nagoya University (2023)



Assistant Professor Peamsook Sanit

Chulalongkorn University

Faculty of Architecture, Department of Urban and Regional Planning

Bachelor of Arts (Geography), Chulalongkorn University

Master of Planning (Regional Planning). Chulalongkorn University

Dr.Eng (Urban Transportation Planning), Yokohama National University (2014)

ご清聴ありがとうございました



個人ウェブサイト

<https://www.genhayauchi.jp/>



Eight 名刺データ



Livability Index by Public Transport

早内 玄（はやうち げん）

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 特任助教

hayauchi.gen.e9[at]f.mail.nagoya-u.ac.jp

本件には、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の下で推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期／スマートモビリティプラットフォームの構築」（研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）(NEDO管理番号：JPNP23023)の成果が含まれています。